

地球惑星科学科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理学部地球惑星科学科では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- ・主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかねばならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成しています。具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。（物理学科と同じ）また、地球惑星科学の基礎知識を習得できるように、「地球惑星科学Ⅰ」「地球惑星科学Ⅱ」を開講します。
- ・2年次以降は、専門性を深めるため、学部専門科目を開講します。
- ・2年次の「地球惑星科学セミナー」は必修科目で、地球惑星科学の様々な分野の講義演習を通じて、広い地球惑星科学の個別分野を学ぶ前段階として、全体を俯瞰しながら、基礎知識を学びます。
- ・2年次には選択必修科目 B および C として、地球惑星科学の基礎となる数学、物理学、化学を習得するための講義、データ取得と解析の基礎を学ぶための講義、地球惑星科学の基礎知識を習得するための講義が開講されます。また、これらに関連する演習、実習、実験も開講されます。演習科目や実習科目では、座学の講義で教わった知識や手法を実際の問題に適用していくことによって、論理的思考力や問題解決力の向上を目指します。実習科目や実験科目では、さまざまなデータの取得と解析を行い、科学的に解析するための数量的スキルや情報リテラシーを習得します。また実習や実験では、レポートの作成と提出を通じて、表現・伝達能力の向上も図ります。
- ・3年次からは、2年次に習得した基礎知識、手法や技術を前提として、より専門的な科目が開講されます。
- ・3年前期には選択必修 D として、地球と惑星の現在や過去の姿や構造に関する基礎知識の習得を目指した講義が開講されます。また、関連する分野の実験や実習科目が開講され、さまざまなデータを取得技術や手法を学ぶとともに、科学的に解析するための数量的スキルや情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力の一層の向上を図ります。またレポートの作成と提出を通じて、表現・伝達能力の向上を図ります。
- ・3年後期は全て選択科目となり、個別専門分野への各自の興味に応じて、履修科目を選択します。より専門的な地球惑星科学の知識の習得を目指す講義科目および、関連する実習科目・実験科目が開講され、より専門的で高度なデータ取得や解析手法の習得を目指すとともに、レポート課題の作成と提出を通じて表現・伝達能力の一層の向

上を図ります。

- ・ 4年に進級する際に、各研究室に分属します。分属の希望調査は3年後期の1月頃に行われ、分属先の研究室が決定するのは、3月末頃です。各研究室に分属して、通年の「地球惑星科学文献講読」といわゆる卒業研究である「地球惑星科学研究」とを履修します。これらの履修によって、知識をさらに拡充するだけでなく、最先端の研究課題に取り組むことによって、データの取得と解析能力のトレーニング、論理的思考力や問題解決力の向上を目指します。また、分属先研究室でのセミナーや卒業研究発表会では、自分の研究内容や成果について発表することによって、分かりやすく表現し、伝達する能力を養成します。

学習成果の評価の方針

I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、理学部および地球惑星科学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえて、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の「学修成果の質」（達成度）に応じて行います。
2. 同一科目を複数教員が開講する科目では、それぞれの科目において評価の段階を統一します。
3. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されており、当該「到達目標」に基づく成績評価の結果を毎年度末に検証し、必要に応じて再検討します。

II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行います。
2. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定めます。